

2023 年 9 月 1 日以降に川崎医科大学高齢者医療センターへ初めて入院し、2026 年 3 月 31 日までに退院した 65 歳以上の方 及びご家族の方へ

「転帰と最も強く相関する高齢者機能評価（CGA）ドメインは何か
：亜急性期回復期病床の高齢入院患者を対象とした研究」へのご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学 認知症学 講師 秋山 真樹

1. 研究の概要

超高齢社会となった現在、高齢の患者さんが入院された際、治療後に無事ご自宅へ退院できるか、あるいは症状の悪化や万が一の事態が起きないかをあらかじめ予測することは、適切な治療や退院支援を行う上でとても重要です。

そのため現場では、高齢者の心身の状態を幅広く調べる「高齢者総合機能評価（CGA）」という検査が活用されています。しかし、数ある検査項目（からだの動き、物忘れの程度、栄養状態など）の中で、どの組み合わせが最も少ない手間（負担）で、正確に退院後のリスクを予測できるのかはまだ十分にかわっていません。

そこで本研究では、患者さんの基本情報（年齢、性別、持病の程度など）や血液検査の結果を考慮した上で、どの検査項目が「不利益な退院（死亡や症状悪化による転院）」を最も強く予測できるかを明らかにすることを目的としています。

2. 研究の方法

1) 本研究の対象となる方について

2023 年 9 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日の間に当院に入院し、その後退院された方

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院を初回退院された方の診療情報（カルテ）をもとに研究者が関連するデータを選び、分析を行います。

4) 使用する情報の種類

カルテ等に記録されている以下の臨床データを使用します（新たな検査や負担はありません）。

- 基本情報： 性別、年齢、持病の状況など

- 退院時の状況： 死亡退院、または病状悪化による他院への転院の有無
- 高齢者総合機能評価（CGA）：
視覚障害（VI）、基本動作（BI）、日常動作（IADL）、認知機能（MMSE）、気分状態（GDS-15）
- 血液生化学検査： K、Na、Ca、Mg、無機リン、アルブミン、総コレステロール、eGFR、ヘモグロビン、CRP など

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から 5 年間、川崎医科大学高齢者医療センター医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

・研究資料の開示について

個人情報の保護や研究の特許・独自性を損なわない範囲であれば、研究計画書などの資料を閲覧・入手していただけます。ご希望の際はお申し出ください。

・個人情報の取り扱い・ご家族への説明

個人情報の開示はご本人のご希望がある場合にのみ行います。また、ご同意をいただければご家族（配偶者、保護者、ご兄弟など）や代理人の方を交えてご説明することも可能です。ご不明な点がございましたら、いつでも担当者までお気軽にお尋ねください。

・発表時のプライバシー保護（匿名化）

本研究の成果を学会や論文などで公表する際は、氏名や生年月日など個人を直接特定できる情報を削除・暗号化し、個人が特定されない状態で発表いたします。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2027 年 12 月 31 日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学高齢者医療センター 高齢者総合診療科

氏名：秋山 真樹

電話：086-225-2112 内線 48049（平日：8 時 30 分～17 時）

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。